

## コーディネータの立場から見た 理工系コーオプ教育プログラムの実践

○穂崎 良典（京都産業大学 共通教育推進機構 キャリア教育センター）  
荻野 晃大、玉田 春昭、水口 充、吉村 正義（京都産業大学 情報理工学部）

### 1. はじめに

京都産業大学では、これまで取り組んできた産学連携教育のノウハウを生かしながら『コーオプ教育』として、科目体系の整備や中期インターンシップ、長期有給インターンシップを先進的に取り組んできた。この展開をさらに専門教育の中で実践すべく、コンピュータ理工学部（現在は情報理工学部）に改組の特別研究（卒業研究）の一環で3ヶ月間のインターンシップを組み込んだ『理工系コーオプ教育プログラム』を2016年2月から開始した。

本稿では、本プログラムへのコーディネータ（キャリア教育特定専門員）の関わりについて、本年度の取り組みを基に振り返りと実施報告を行うものである。

### 2. プログラムの概要

本プログラムは、専門教育実践型インターンシップ（以下：IN）である。参画する教員の研究室に所属する学生を対象として、3年生の3月から4年生の5月末までの3ヶ月間、企業での実習は週1日、残りの平日は大学での実習という内容で実施している。内容に関する詳しい情報に関しては参考文献1)、2)、3)、4)で述べている。本年度の主な取り組みは、2018年2月22日開催の事前学習から開始した。アンマッチ企業が1社発生、また、エントリー後、実習に参加できなかった学生が1名いたものの、学生8名が受け入れ企業4社にて実習を行った。受け入れ企業4社の内、2社は新規企業である。プログラムは2018年7月23日開催の事後学習及び成果報告会にて終了した。

### 3. コーディネータの役割

本プログラムの取り組みにあたり、教員4名、キャリア教育センター職員2名、コーディネータ1名で取り組んだ。また、次年度以降は事務が担う業務について、共通教育推進機構から学部事務室へ移管する予定である為、学部事務室より職員2名が各イベントに積極的に参画した。

プログラムは、①対学生活動、②プログラムの企画・実施・運営、③対企業活動の3つに大別できる。これを教員、キャリア教育センター職員及びコーディネータが分担して行う。1つの企業に対して複数の研究室から学生が参加しているため、企業ごとに主担当制をひき、主に、①は教員、②は教職協働、③はコーディネータが担った。ただし、実習の円滑な運営では、教職員の密な連絡や相談が不可欠であるため、およそ70%の項目については、所謂、教職協働となった。

### 4. まとめ

本プログラムにおけるコーディネータの役割は、(A)対企業活動全般、(B)リスク管理、(C)プログラム全体の進行を俯瞰することにある。(A)については、可能な限り参加企業との歩調を合わせる。(B)については、リスクヘッジに努める。(C)については、プログラムの進行を客観視することである。

最後に、より専門性の高いプログラムへの展開は、教員の更なる積極的な参画が不可欠であり、そのためのサポート体制の充実は組織をあげて強化することが必要となる。

#### 【謝辞】

本プログラムは、2018年度京都産業大学教育プログラム支援制度に採択された。

本プログラムの実施にご協力いただいた関係企業のみなさま、有限会社アルファの猪田孝弘氏、京都産業大学名誉教授の後藤文彦先生、京都産業大学キャリア教育センターの平野伸明氏、川原崎ふみ氏に深謝いたします。

#### 【参考文献】

- 1) 玉田 春昭、荻野 晃大、穂崎 良典、“専門教育実践型インターンシップの開発と試行”、日本インターンシップ学会 第17回大会、September 2016
- 2) 福田 理恵、吉田 謙一、荻野 晃大、玉田 春昭、穂崎 良典、“産業界から見た専門教育実践型インターンシップの成果と課題”、産学連携学会関西・中四国支部 第8回大会 28 November 2016 口述発表
- 3) 荻野 晃大、玉田 春昭、穂崎 良典、“理工系コーオプ教育プログラムの実践報告”、高等教育フォーラム、Vol.7:pp.13-23, March 2017
- 4) 水口 充、荻野 晃大、玉田 春昭、穂崎 良典、“理工系コーオプ教育プログラムの改善と実践”、高等教育フォーラム、Vol.8:pp.73-77, March 2018